



創刊にあたって

石川県立看護大学は、西暦2000年という記念すべき年に、また、新たな21世紀に通ずる意義深い出発点でもある時期に設立されたものです。

高度な医療技術や先端科学が進展する現代社会の中で、健康問題をもった人々の生命や暮らしに焦点をあて、人間らしさを大切にされた社会のあり方が大切な課題となっています。

この様な社会の様相を背景に、看護学は人々の健康とQOL(生命の質・生活の質)の向上を図るためのケアの学問として確立されました。それに呼応するかのように、我が国の看護系大学の数は、近年著しい伸びをみせており、現在90余に到っております。一方、少子高齢社会の中で、大学の果たす役割も多様化し、競争的環境のもとでの独自性が必要となり、社会に果たす役割も一段と重要性を帯びてきています。

本学の設立の趣旨は、石川県においては、長寿社会づくりの基盤の一翼を担う看護職の役割の重要性に鑑み、高度な教育・研究機能の確保と充実を図り、質の高いケアを提供できる看護職の育成を図ることとされています。我々は、本学が

石川県立看護大学学長
金川 克子



地域に開かれた大学として、県民の健康と福祉に貢献するとともに、より豊かな人間性を備えた看護専門職の育成をめざすよう、努力する所存であります。

また、本学は看護学の単科の大学であります。専門に偏重することなく、看護学関連の他領域の学術と相互交流を図り、看護学の発展を図っていきたく思います。

新しい大学づくりをめざしての活動は、教育・研究・社会的活動等から多面的であり、これらはその緒についたばかりですが、ここに本学の現状や活動成果をできるだけ学内・外に広く発信し、これらの内容をご理解頂くため、IPNUキャンパスネットを発刊することといたしました。多くの方々からのご意見やご指導いただきながら、本学の発展に貢献できるよう本誌を充実していきたいと考えています。

シンボルマーク



「次代の看護の担い手を育む教育機関」として、その「自負」と「誇り」を表現

円の重なり／石川の「石」の字

看護に関する様々な分野を結ぶ「コーディネーターの役割」

円の広がり／学生が社会で大きく羽ばたくという「期待」

つぼみ／次代を担う大切な人材を育む機関

十字・光／「医療や看護」等の行為を示す十字と「光輝く」学生

色の基調

- ブルー／「青い海」、「澄んだ空気」など石川の恵まれた自然環境を象徴
「崇高な看護精神」や「知性」、「品位」、「清潔感」を表現
- グリーン／「緑豊かな環境」、「安心」、「やすらぎ」、「信頼感」を表現



石川県立看護大学

ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

看護学部 看護学科

〒929-1212 石川県河北郡高松町字中沼ツ7番1

TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319

URL <http://www.ishikawa-nu.ac.jp>

E-mail office@ishikawa-nu.ac.jp



本県の看護教育・研修の拠点に

石川県知事 谷本 正憲

本大学は、日本海と宝達山を眺望する豊かな自然に囲まれたキャンパスに、第一期の入学生を迎え、新たな第一歩を踏み出しました。

これもひとえに地元高松町や関係各位のご支援の賜物と、深く感謝申し上げます。

ご存じのとおり、高齢化の進展等によって、真の豊かさが実感でき、生涯にわたり生き甲斐と活力をもって暮らせる社会の実現が強く求められています。

本県では、その実現に向けて各種施策を推進しているところでありますが、とりわけこれを支える人材の確保、育成が重要であると思っております。

そうした意味において、保健、医療、福祉の幅広い領域で指導的役割を果たしうる高い資質を備えた看護職を育成するとともに、本県の看護教育・研修の拠点とすべく本大学を設立したところであります。

そして、地域の方々との交流を図りながら、より質の高い在宅ケアを提供できるように、高度な実践的教育を実施するとともに、国際化・高度情報化にも対応して、大学の内外を結ぶ情報ネットワークの構築にも取り組んでまいりたいと考えております。

学生の皆さんには、いつまでも本大学を目指した時の志を忘れないで、看護専門職として必要な知識や技術の修得のみならず、積極的に地域にとけ込み、豊かな人間性をも育んでいただきたいと思っております。

また、教職員の皆さんには、すべてが新しい中で、大学の運営を軌道に乗せるには大変ご苦労されていることと思いますが、フレッシュな学生とともに素晴らしい大学となる歴史の礎を築かれることをぜひ期待しております。

研究・教育内容の充実と 地域社会の貢献を目指して

学長 金川 克子

豊かな自然環境の中、素晴らしい校舎が完成し、開学できましたことは、教学の責任を担う者としてこのうえない喜びです。

開学にあたり各方面から寄せられた多くのご指導とご協力に対し、心から感謝の気持ちを申し上げたいと思います。

さて、開学以来、多くの方が訪れておりますが、見学者の中から「大変明るく広々とした素晴らしい施設であり、これなら将来子供を入学させたい」、あるいは「もう一度、学生に戻ってここで学んでみたいほど素敵な施設である」などのご意見をいただいております。

また、私は4月から地元高松町にありますが、地元の方々の本大学に寄せる期待の大きさもひしひしと感じられます。そのことから、私たちはこの恵まれた施設の素晴らしさばかりに気をとられ、目先のことしか考えないことは許されません。

この施設をどのように研究、教育の充実に活用するかが、今後、私たちに付託された課題であると考えております。研究・教育内容の充実、ひいては地域社会の人々の健康と福祉に貢献できることこそが、本大学の評価を決定づけるものであり、存在理由もそこにあると考えられます。

その意味で、大学の責任者として本学に課せられた社会的責任の重大さを痛感し、今後、教職員と一体となって、多くの困難に遭遇しようともこれを乗り越え、大学の名にふさわしい教育環境づくりと研究、教育内容の充実に全力を傾注し、地域社会の付託に応える決意を新たにします。

明るく未来に開かれた学舎に集う学生諸君が、教育、研究に打ち込むとともに、課外活動などを通じて広い視野を持つ社会人として成長し、また、教師や学友とのふれあいの中で人生を論じ、自ら学ぶ積極性を持ち、やがて有為な人材として社会に巣立つことを切に希望し、期待をいたしております。

2年目を迎えて

学生部長 天津 栄子

20世紀から21世紀へと刻は引き継がれ、看護大学は2年目を迎え、大学の歴史の1ページがスタートしました。広々とした大学キャンパスには、積雪1mの下で耐え抜いた木々が新芽を出し、“こぶし”“くちなし”の蕾が春の光を浴びて膨らんでいます。1年を終えた学生たちは、少し大人になって、後輩の入学を心待ちにしています。

昨年は4月の入学式、5月の開学式典に始まり、地元高松町の祭りに参画したのをきっかけに学生たちは地域に馴染みはじめ、オープン・キャンパスでは多くの高校生と出会い、大学生としての自覚が芽生えたようです。さらに学生自ら選んだテーマに取り組むフィールド実習では、県内20数カ所のフィールドで貴重な体験学習をし、「相手の立場になって考える大切さ」や「チームワークの大切さ」「仕事に誇りをもつこと」等、働く多くの人々とのふれ合いを通して学生たちは「何かが変わった」と実感をもって学ぶ機会を得ました。

そして秋には学生たちの力を結集した大学祭で、他大学の学生や市民との交流が生まれ、先輩のいない苦勞を乗り越えた1年でした。この1年間の成果は有形無形に2年目の豊かな栄養分になっていくと確信しています。

本学は4年間の一貫した教育のなかで、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護専門職の人材育成と地域に役立つ開かれた大学づくりをめざしています。そのためには、専門職としての知識や技術を病む人々の個性に合わせて実践する基盤として、人の痛みや苦しみを分かち合える暖かい心や豊かな人間性を育むことを大切にしています。

「看護という新しい芸術であり、新しい科学でもあるものが創造された」と、ナイチンゲールが看護学への扉を開けてまだ100余年ですが、看護学はArt & Scienceとして着実に発展してきており、よりよいケアが人々のQOL(生命の質・生活の質)を高めることに大いに貢献しています。これからは看護学に求められる社会的使命はさらに大きくなると思われます。看護学研究への思考力や創造性を涵養し、学び続ける力を培い、やり抜く行動力を発揮して欲しいと願っています。

そのためには、大学で学問的文化遺産を受け継ぎながら、自分は今どの地点にいるのか、どのような人間に創りあげていくのか、目標・志を大きく掲げて2年目を迎えてほしいと期待しています。

付属図書館の一年間の歩み

付属図書館長 高橋 徳之

本学は看護系単科大学として全国的には後発の大学として創設されました。新設の看護単科大は大学や図書館の運営に独自の方式を採用しているところが多いため、参考事例が少なく、本館も試行錯誤の状態が続きました。最初に着手したのは、入学式までに図書館の日常業務を軌道に乗せる事でした。すでに入庫していた約1万5千の蔵書と100種類あまりの雑誌をOPACに整備し、また、先生方が研究を一日も中断しないように、データベースによる文献検索法と文献複写依頼法を導入し、図書館員に習熟してもらいました。

次いで図書館整備費による新規図書購入の整備を開始しました。年間計画により、第一期目は個人単位で、二期目は講座単位で、また、学生や教員・事務職員からは図書館で常時受け付けるという三方式で進めました。教職員の方々や学生諸君の多大なご協力が得られ、専門と教養書・バックナンバーを含めて、現在2万1千冊以上の蔵書数になっています。又、研究室で購入の図書や雑誌類もOPACに登録させていただき利用者の便宜を図っています。一方、視聴覚教材の整備はかなり遅れており、すでに開講していた医学や教養系の教材が殆どなく、急遽リストを提出していただき整備しました。また、先生方や学生から視聴覚教材を開架方式にさせていただきたいという強い要望があり、試行しましたところ、紛失の心配も杞憂に終わり、現在は通常化しています。

文献複写の料金体系は未だ結論が出ていません。本年4月よりILL加盟大学間では国立大並の料金相殺制が取り入れられる事になり、本館でも早期の導入が期待されます。この他に、本館の一般開放と雑誌やデータベースの見直しが懸案事項として残っています。将来的には、図書館報やOn Line Journalの発行、電子図書館化の促進、又、大学や公立図書館間をNetで結んだ、いわゆるコンソーシアムの実現を夢見ています。

当初より本館の運営の基本として、公共性、共有性、そして利用者の利便性を考えてきました。幸い皆様の温かいご協力が得られ、その土台が築けたことは望外の喜びと思っています。現在は世界中の情報が一瞬のうちに手元に届く時代になっています。今後、本館が大学や地域の情報発信基地として世界に迎えられる日がくることを祈念しています。

大学の概要

所在地 石川県河北郡高松町字中沼ツ7番1
 学部学科 看護学部看護学科
 収容定員 340人
 (入学定員80人、3年次編入学定員10人)
 学位 看護学士
 卒業後資格 看護婦(士)、保健婦(士)の国家試験受験資格



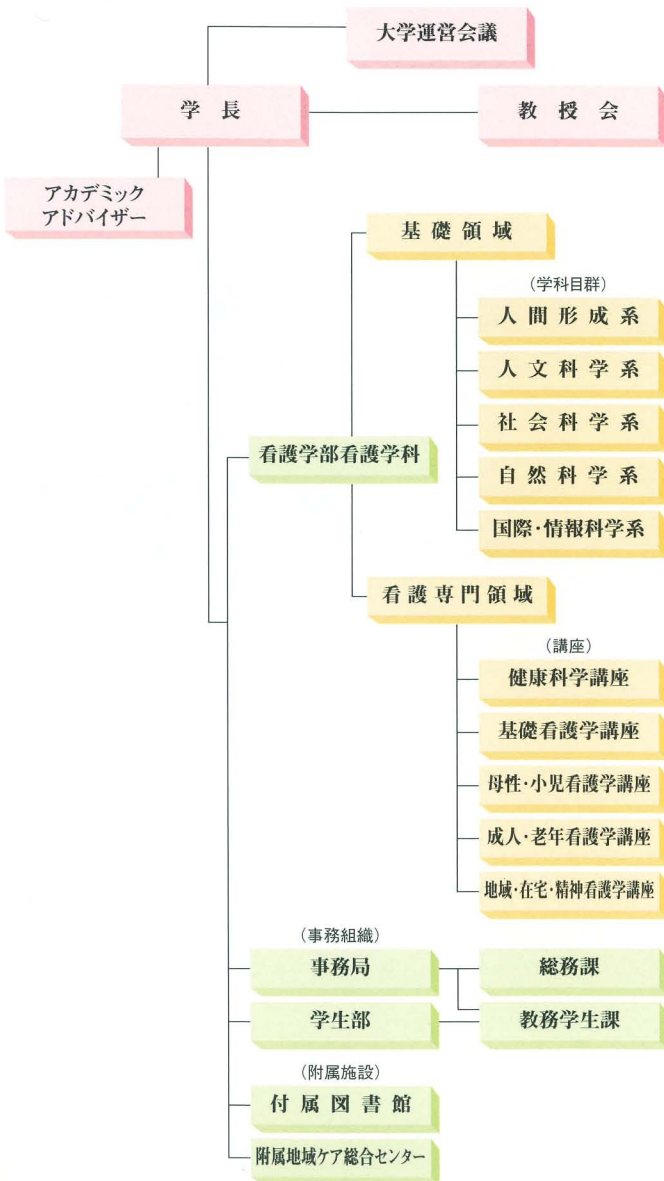
看護に欠かせない、 温かい心と確かな技術を

いつまでも、どんなときも、その人らしく生活できるよう、援助する仕事。

それが「看護」です。現在、医療や福祉の分野では、「Quality Of Life (生活や生命の質)」が重要視され、高齢者や障害を持つ人への看護や、ターミナルケアのあり方について、関心が高まっています。これからは、専門的な知識・技術はもちろん、命の大切さや、人間としての豊かさとは何かを考えながら看護に携われる人材が、さらに求められてくるでしょう。

石川県立看護大学は、看護の技術やその基盤となる精神とともに、新時代のさまざまな場所で活躍できる、優れた看護職者を養成します。

■組織図



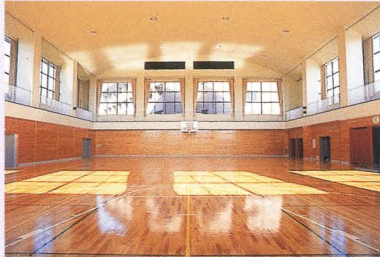
■教員一覧

領域	学科目群または講座	科目群	職位	氏名
基礎領域	人間形成系	健康体力科学	教授	花岡美智子
		心理学	教授	木場清子
	人文科学系	哲学	教授	浅見 洋
		自然科学系	人間工学	助教授
	国際・情報科学系	英語	教授	多田博生
情報科学		教授	松原 勇	
看護専門領域	健康科学講座	機能・病態学	教授	高橋徳之
			助教授	今井美和
	保健・治療学		教授	細島弘行
			教授	中村秀喜
	基礎看護学講座	基礎看護学		教授
			助教授	佐々木栄子
			助教授	滝内隆子
			講師	小松妙子
母性・小児看護学講座	母性看護学	講師	柗淵恵美子	
	小児看護学	教授	西村真実子	
成人・老年看護学講座	小児看護学		講師	井上ひとみ
		成人看護学	助教授	水野道代
	老年看護学		講師	村井嘉子
			教授	天津栄子
			助教授	佐藤弘美
地域・在宅・精神看護学講座	地域看護学		教授	金川克子
			助教授	斉藤恵美子
	在宅看護学		講師	橋爪祐美
			講師	中谷芳美
	精神看護学	講師	伴真由美	
	教授	栗田いね子		
		講師	北岡和代	

キャンパス案内

スポーツ施設

校舎西側にはスポーツ施設が充実しています。トレーニングジムを備えた体育館、広々とした3面の屋外テニスコートでさわやかにスポーツを楽しめます。



体育館



大講義室

情報処理演習室



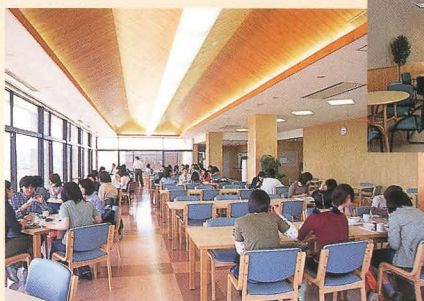
地域・在宅・精神看護学実習室



人間病態学実験室

教育研究棟

1・2階は学習・実習ゾーンとして、最新の設備を備えた講義室、実習・実験系の諸室、情報処理演習室、語学演習室などを配置し、3・4階は研究ゾーンとして演習室や教員の研究室などを配置しています。



食堂



談話室

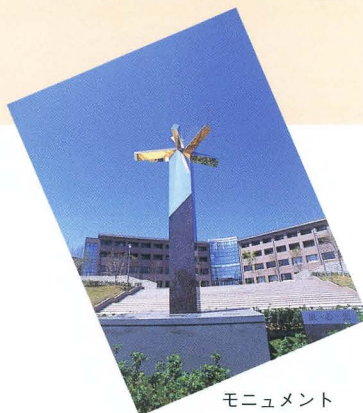


和室

厚生棟

1階に食堂、喫茶コーナー、売店、談話室、2階にサークル室や和室を配置しています。特に食堂は東面・南面がガラス張りの明るい構造で、屋外テラスのあるリラックス空間としています。

また、食堂の内壁には県産のケイソウ土を使用しています。



モニュメント

—風・心・光—

管理棟

管理棟では、大学の管理・運営を担当する事務局や地域に開かれた大学となるための総合窓口である地域ケア総合センターがグラウンド階にあります。1階はカウンセラー室や保健室のほか研修室が配置され、2階には学長室や学生部長室があります。

また、九谷焼、輪島塗をドアのアクセントやネームプレートに使用しています。



管理棟(正面)

あての木

建材には、県木であるアテの木が各所に使われています。木のぬくもりにより、リラックスしたあたたかい空間をつくりだしています。

九谷焼

教育研究棟正面入口は4階までの吹き抜けホールとなっており、石川の伝統産業「九谷焼」で創られた壁画が掛けられています。

講堂

450席の客席を備え、式典、ミニコンサートなど様々な催しに対応できるようになっています。

また、内装は落ち着いた親しみのあるものになっています。

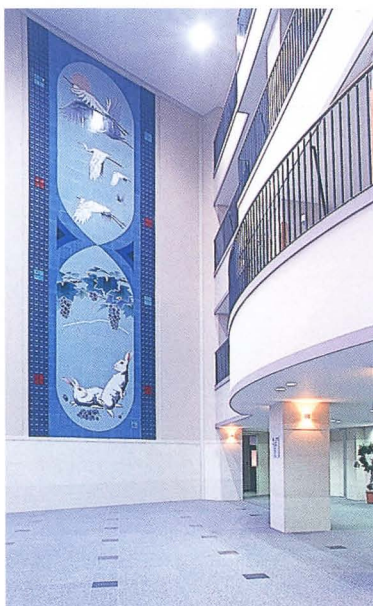
ホワイエにはスロープを、ホール内に車椅子用のスペースを設け、バリアフリーに十分配慮しています。



講堂



ホワイエ



開学以来の主な行事



入学式



いきいき健康講座



大学祭

- 4月10日 入学式
- 5月29日 開学記念式典
- 7月16日 オープンキャンパス
- 7月26日・9月26日・11月29日
痴呆性高齢者介護施設等職員研修会
(地域ケア総合センター)
- 9月21日 第1回学内学術発表会
- 10月 7日～11月11日
いきいき健康講座
(地域ケア総合センター 計5回開催)
- 10月26日 第2回学内学術発表会
- 11月 3日～4日
大学祭(看大祭)
- 11月16日 第3回学内学術発表会
- 11月19日 推薦入学・社会人特別選抜試験
- 12月10日・16日・2月10日
院内感染対策研修会
(地域ケア総合センター)
- 12月21日 第4回学内学術発表会
- 2月25日 一般選抜前期試験
- 3月 3日 高齢者の看護・介護を考えるシンポジウム
(地域ケア総合センター)
- 3月12日 一般選抜後期試験
- 3月17日 看護講演会(地域ケア総合センター)

フィールド実習行われる

フィールド実習とは学生が自らのテーマを設定して、様々な健康レベルの人々の生活(職業)に触れ、人間、社会、環境、生活、健康の理解を深め、こころの通う看護職を目指し他人に対する思いやりのこころを育むことを目的に行われるものです。受け入れ先は人間相手のサービス業や裁判所、図書館、動物相手の水族館・動物園・牧場、さらに報道関係や漁場、自衛隊、警察署など28カ所でした。受け入れ先の方々には大変お世話になりました。以下は学生が得た貴重な体験の一端です。

フィールド実習を振り返って

◎自分から向かっていかないとできない

看護学科1年 西村のぞみ

フィールド実習と聞いて中学生の時にした職場見学が思い浮かびました。看護大学なのにどうして一番初めの実習を病院や福祉施設にしないのか疑問に思いました。しかし実習目的にはこう書かれていました。「看護職の主要素である人間・社会・環境・生活・健康の理解を深めるため学生自らのテーマを設定し、様々な健康レベルの人々の生活の場に向き実習を行う。人々の日常生活の様々な社会現象に触れ、人間を生活者として全人的に理解することを通して看護を学ぶ基礎を養う。」この実習目的を何度も読みましたが本当にそんなにうまくいくのだろうか、単なる見学になって楽しかったとかつまらなかったとか一言ですむような実習になってしまわないか、不安でした。しかし自ら自分の興味があるフィールドを設定できたことで意欲は湧きました。実習テーマと目的を立て実習先に連絡をとる。簡単そうに思えましたが、かなり苦戦を強いられました。テーマが目的から遠ざかっていないだろうか、この日程だと実習先に迷惑をか

けないだろうか、実習先の人はどんな方だろうか、なにか持っていくべきなのか、看護学生を受け入れてくれるのだろうか、自分のしたいことと相手のことを考えるとなかなか質問内容が決まらず、頭を抱えましたが、自分のしたいことは相手を待っているのではなく、自分から向かっていかなければいけないということに気づき一つの山を越えられた気がします。

◎陶芸が人を癒す

一日目、私は九谷焼陶芸館に実習に行きました。ここで私が知ったことは陶芸が人を癒すということでした。たまたま陶芸教室の生徒さんとお話をしてそのことを強く感じました。一人の男性はリハビリとして陶芸を7年以上もしているとのこと。陶芸は音楽や書道とも似ていてリズムがあり、疲れを感じさせず、嫌なことを忘れさせてくれるそうです。定年退職をした男性は何にもすることがなかったが陶芸をすることで生きがいを感じているといいながら楽しそうに陶芸をしていました。陶芸は誰でも簡単にできる、自然の土から作る、自分の手で自分の思いのままに作ることができる、できた作品を眺め何か感じたり次の作品は今の作品よりももっといいものにしようという向上心をかきたてるなど数え切れないほどいい点があることに気づきました。現在の病院で患者さんは何ができるでしょうか。本を買ってきて読む。食べる。病院内をぶらぶらする。テレビを見る。など行動範囲が決まっているような気がします。何か生きがいがないければ誰だってだめになっていきます。また病院内は殺風景で癒しの空間があまりないような気がします。ベットの横に花があったり、外の風景を見ることができるとなんだかほっとします。それと同じように陶芸の微妙な色を見たり実際に手を使って作品を作るのは体にはいいことだろうと考えさせられました。人を癒す陶芸がこれからの看護に結びついていけばいいと思いました。また私も絵を書くこと、物を作ることが好きなので自己満足にとどまらず誰かを癒せたらいいと思いました。



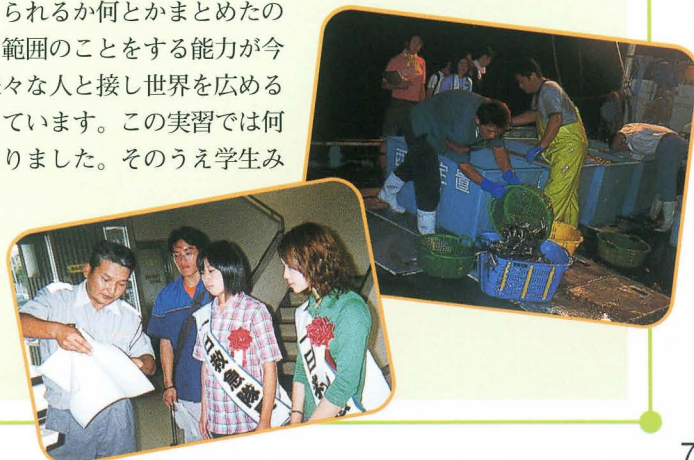
◎鑑賞する能力を活かしていく

二日目、私は陶芸家の武腰さんの工房に実習に行くことができました。お会いする前は、芸術家とは私たちにとって遠い存在だと思っていました。しかし実習前にお邪魔したとき陶芸のお話だけでなく、世間話や武腰さんの趣味などお話をしてくださったので、私の緊張もほぐれ、自分の想像通りの実習ができたと思います。普通ではなかなか出会うことができない人の生活、環境、社会に実習を通してかかわることができたので本当によかったです。私たちの大学の入り口の壁画「美しき生命」に込められた武腰さんの思い、絵柄の意味、創作期間、苦労したことなど創作過程を知ることができたことで、「美しき生命」がより身近に思えるようになりました。初めて壁画を見たとき一枚の絵として大まかにしか眺められませんでした。お話を伺ったり、実際に絵付けを体験したことで一つの絵を構成している一片一片を繊細に鑑賞することができるようになったと思います。この部分の色合いはどうなっているのか、この絵は何を表現しているのか、鑑賞するという能力が身についたと思います。これをきっかけに私は人に対しても顔色の変化・言動の変化・行動の変化など微細なことに気を払える人間になりたいと感じました。

武腰さんの作品が大学の象徴として飾られていたことがきっかけでフィールド実習では素晴らしい出会いができ、とてもよかったと思っています。陶芸家とは、私の考えでは自分の好きなものを思いのまま表現し、時間を費やし時間に縛られない職種だと思っていましたが、依頼された条件に合うような作品を期間内に作らなくてはいけない、自分が気に入らなくても妥協しなくてはいけない、第三者の見る目を気にしつつも自分の感性を表現する、武腰さんのこれからの目標のように自分の能力の限界を追求する難しい職種だと感じました。

◎多くの人と接し世界を広めたい

今回の実習でほとんどの班がグループ行動という形をとっていました。しかし私たちの班はフィールド、目的、対象がまったく別々だったため個人個人で行わなくてはいけません。そのため実習当日までとても不安でしたが、実習後、決められた時間内でいかにほかの人に伝えたいことを伝えられるか何とかまとめたので逆にその苦労をした分だけ達成感がありました。一人のできる範囲のことをする能力が今回の実習を通して培われた気がします。今の私に必要なことは様々な人と接し世界を広めること、そこから相手の立場に立つということができていくと思っています。この実習では何人かの人に接することができたことで私にとって大きな利益となりました。そのうえ学生みんな異なった目的をもちろんなところに出向きその発表を聞いたので一度の実習で様々な人の社会、環境、生活、健康、労働、に触れることができ多くのことを学ぶことができたと思います。今回学んだことを十分に活用しこれからの生活、実習に取り込んでどんどん私の知識を膨らませていきたいです。



学生と地域をサポート

地域ケア総合センター

地域ケア総合センターは、地域に開かれた看護大学となるための総合窓口として、県民および看護・福祉・介護専門職の交流の拠点となるとともに、看護・福祉・介護専門職のレベルアップに取り組んでいます。



人材育成機能

県民および専門職を対象とした公開講座等を開催します。

調査研究機能

地域に即した看護・福祉分野の課題について調査研究・提言等を行います。

指導助言機能

看護・福祉・介護専門職に対する指導・助言を行います。研修会等へ講師を派遣します。

情報発信機能

看護大学の研究成果等を県民にわかりやすく情報発信します。

国際化促進機能

海外との学術交流等を行います。

TEL ● 076-281-8307
E-mail ● sogocen@ishikawa-nu.ac.jp

図書館

1階は閲覧室のほか開架書架と図書館事務室を配置し、2階には視聴覚資料と閲覧用ビデオ設備とともに、CD-ROMによる情報提供とインターネットが利用可能な情報端末が設置されています。



利用案内

<開館時間>

○月曜日から金曜日 9:00～19:00

○土曜日 13:00～17:00

ただし、土曜日は閲覧だけで本の貸出は行いません。

<休館日>

○日曜日・祝日

○年末・年始

(12月28日～翌年1月4日)

○蔵書点検・整理日

○開学記念日

休館する場合は前もってお知らせします。

<図書館を利用する場合>

○学内者

学生証または利用証が必要です。

○学外の方

以下の方が利用できます。

・県内に住む18歳以上の方
ただし、大学受験等のために利用することはできません。

・県内に所在する事業所に勤務されている方

※カウンターで特別利用証の発行を受けてください。学外の方への本の貸出は行っていません。

TEL ● 076-281-8321 E-mail ● library@ishikawa-nu.ac.jp

キャンパス スケジュール

〈2001年度〉

前 期

4月9日(月)	入学式
4月10日(火)・11日(水)	ガイダンス(1年次)
4月12日(木)	前期授業開始
4月19日(木)～25日(水)	前期履修登録受付
5月24日(火)・31日(木)	健康診断
5月29日(火)	開学記念日
7月15日(日)	オープンキャンパス
7月16日(月)～8月31日(金)	夏季休業
9月17日(月)・18日(火)	集中講義
9月19日(水)～28日(金)	補講・定期試験

後 期

10月1日(月)	後期授業開始
10月9日(火)～15日(月)	後期履修登録受付
11月3日(土)・4日(日)	大学祭(看大祭)
12月25日(火)～1月4日(金)	冬季休業
2月12日(火)～3月11日(月)	補講・定期試験
3月12日(火)～	春季休業

発行 ● 石川県立看護大学広報委員会

〒929-1212 石川県河北郡高松町字中沼ツ7番1

TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319